

認知症ならゆっくり低下



たかが匂いぐらい、と侮るなかれ。嗅覚は、ひとの人生を変えるかもしれない。

ワッシーは、赤ん坊の頃、逆さまに落ちて頭を打ったらしい。嗅神経がダメになったのか、子供の頃から鼻が利かない。おかげで、グルメにならないで済んだ。

大人になって嗅神経が切れると、もう嗅神経は回復しない。ことに女性はいへんだ。料理が下手になった。味噌汁がつくれなくなつたと嘆かれる。気の毒だが、これは一生続く。

風邪を引いた後や、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎などで嗅覚障害が起きることがある。治療法があ

嗅覚障害

るから、すぐに耳鼻科だ。というのに、「センセ、たいへん。私、鼻が利かない。認知症になるかも」と、鼻声で迫ってくるのは57才のA子さんだ。ネットに、「嗅覚障害のあるひとは認知症になりやすい」と書いてあったという。

確かに、認知症を併発するパーキンソン病の嗅覚障害は、運動症状が出る何年も前に現れることがある。嗅神経がある嗅球にレビ一小体がみられ、神経細胞が減るといふ。アルツハイマー病でも認知障害や海馬の萎縮の前に、嗅覚障害がみられることがある。

でも、ここで少し考えてみよう。認知症の嗅覚障害は、脳の神経細胞

自覚あれば心配要らない

胞や嗅神経の変性によって起きる。ゆっくり、少しずつ嗅覚が低下してくる。そのうち、鼻が利かないことが普通になる。だから、案外、患者さんは嗅覚障害に気がついていないかもしれないのだ。

一方、外傷や鼻炎などで起きた嗅覚障害では、患者さんは、いつから、どうして鼻が利かなくなつたか知っている。つまり、嗅覚障害を自覚して認知症を心配するひとほど、心配要らないことになる。でも、一度火のついたAさんの不安は消えない。もう、たかが匂いとは言えない。

(石黒修三 しいしくクリニック
脳神経外科専門医、金沢市在住)